



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」中小企業戦略コンサルタント五十嵐 勉 平成23年04月25日 第508号

デジタル化

ある顧問先A社に訪問した時の話です。

多くの企業には書棚や書庫があります。しかし、A社には書庫はおろか書棚にも本がほとんどありません。空っぽです。書庫のスペースが空いたため、新たなことをしようとしています。

なぜ書棚が空っぽになったのか。それはデジタル化、つまり電子書籍化です。必要な書籍や雑誌を裁断機で耳をカットし、その書面の裏表をスキャナーでPDF化します。それをスマートフォンやノートパソコンで電子化された書籍や雑誌を読みます。著作権の問題もあり、外注せずにA社内で裁断からスキャンし、自社内限定の活用に使っています。

こうなると書籍や雑誌を保管する必要がなくなり、書棚や書庫のスペースがいらなくなります。それだけではありません。本社以外に支店や営業所がある会社では、同じ書籍、同じ雑誌を購入する必要がなくなったのです。例えば日本全国に10ヶ所の支店・営業所がある場合、今までは10冊購入していた書籍や雑誌があるならば、本社で1冊購入すればそれで十分なのです。新聞図書費という勘定科目の費用が大幅に削減されます。企業にとって朗報です。

今後も裁断機や高機能なスキャナーが売れていくことでしょう。

一方、出版関連の業界では大変な事になります。極端に言えば売上が1/10になってしまう恐れがあります。リアルな市場が明らかに縮小していきます。

個人的には個人や組織内で楽しんだり、業務上で活用する電子書籍化は歓迎します。同時に背筋がゾツとしたのも事実です。技術革新のお陰で業界が縮小もしくはなくなることがあるわけです。企業の永続は、変化し続けるということを思い知らされました。

ちょっと
気になる出来事

帝国データバンクによると、阪神淡路大震災のとき、1年経過以降に倒産が多くなった。今回の東日本大震災も1年後に倒産が多発するのではないかとのこと。

商工会議所の経営指導員の話でも、既に借入金過多の企業にはもうお金を調達する力がないと。

こうなると当たり前のことですが、内部留保の厚い、自己資本比率の高い企業はこのような時期を我慢できます。耐えられるだけの財務体質をもっています。

キャッシュリッチな企業にも悩みがあります。日本の財政状態を考えると、今回の大震災は日本の財政にとっても大打撃。多くの補償問題で国が関与せざるを得ない。いろいろな事業に対して国有化という声も。そうすると日本の財政破綻がより現実味を帯びてきたのでは・・・。

今ある余裕資金の分散を考えねばという声。とりあえず「金(きん)」、または安全な外貨等々。



一口メモ
成功の秘訣

仕事が面白い

遠路を歩いて疲れそうになると、歌を歌う。

田植えの時でも、「今日これだけは」と必死になる時、田植え歌を始める。すると、急に能率が上がり疲労も少ない。

それは仕事が面白くなるからである。すなわち仕事そのものが「遊び」と変わらなくなる。面白くて、うれしくて、たまらぬ。

すべき仕事のないことほど、苦しいことはない。仕事があること、働く場所があり働くだけの健康体を持っていること、これは世の中で最大の喜びである。

「丸山敏雄 一日一話」(PHP研究所)

本「会社は潰れるようにできている」(中経出版) 発売中!

会社成功塾 毎週日曜日、月曜日 午前10時~12時。

戦略社長塾 毎週土曜日 午前10時~12時。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

